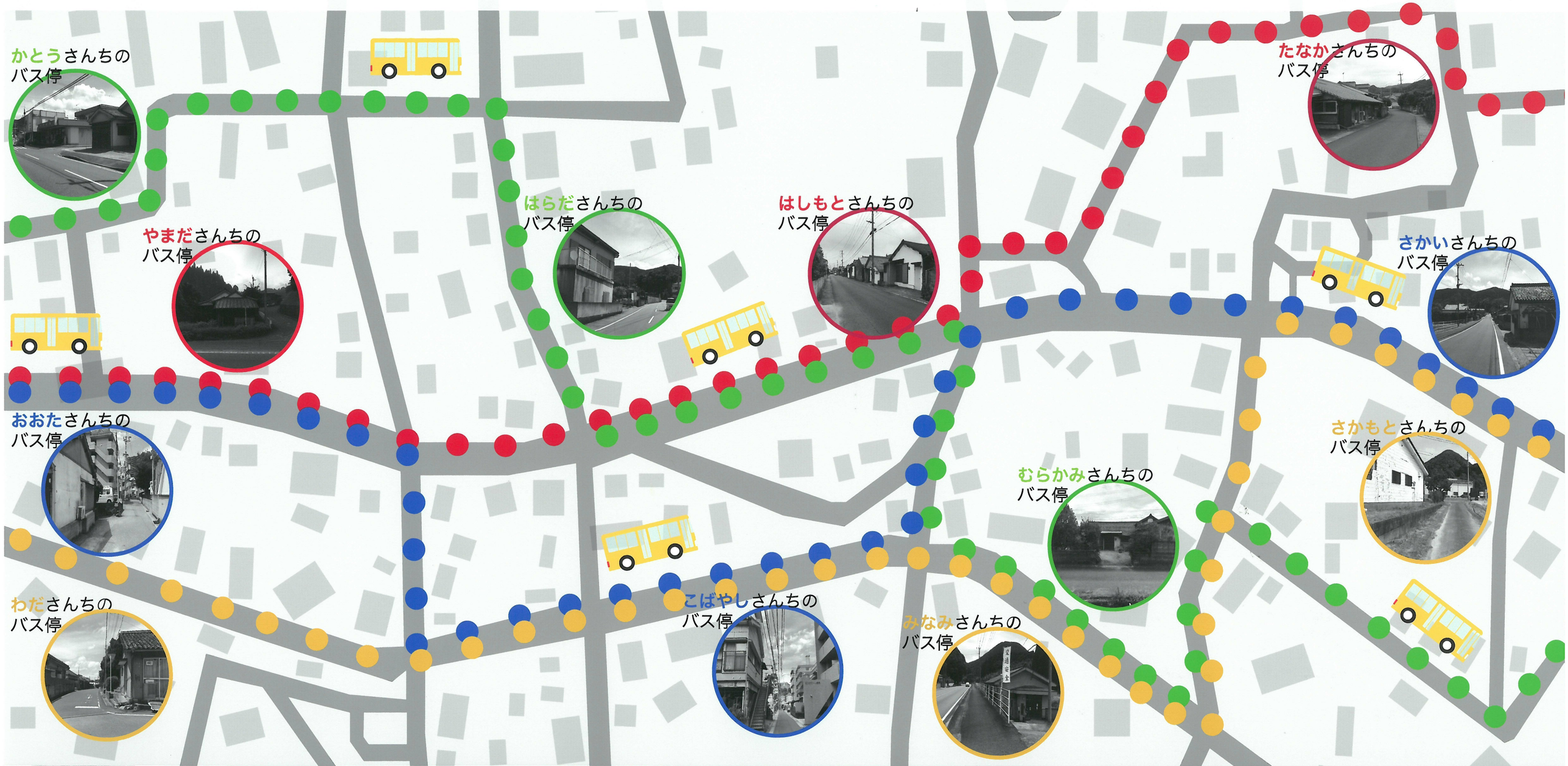
A month

空き家がバス停になる。週間でバス停は引っ越してゆく。少しずつかわるバス停が利用する人に新しい町の風景を見せてくれる。前の週より町のことをよく知っている。

The 1st. week　The 2nd. week　The 3rd. week　The 4th. week



1. 空き家がバス停になる

町に空き家がこんなにあるなんて気づいてなかった。たくさんある空き家をみんなに使って欲しいと思ったら、そこはバス停になった。
空き家のある町には高齢者がたくさんいて、子どもたちにも日常を便利に過ごして欲しい。だったら、みんながいろいろなところに行けて、楽しいバスを利用したらいい。バスは空き家のバス停をはしごしていく。ちょっといいね。

2. 空き家のバス停週替わり

空き家の玄関口をバス停にして、町に開放すると、生きた空き家になるんじゃないかと思う。バス停の数はたくさんあるから、たくさんの空き家が救われる。でも、もっとたくさんの空き家を救うため、週替わりでバス停が近所の空き家へ引っ越していったらいい。費用の一部は地域と行政から補助金が出るとうれしいし、空き家がきれいになったら、その価値もあがる。

3. 馴染みの空き家が地域をむすぶ

もともと空き家は誰かが住んでいて地域に馴染みがない訳がない。そこに住んでた誰かの思い出もきっと地域に詰まってる。だから、空き家のバス停の名を、そこに住んでた家族の名前西よう。それはその場所に馴染んだ名前だし、バス停の名として地域やそこを訪れる人に語り継がれる家族がある。すると、もしかしたら次世代、次々世代がそこに帰ってくるかもしれな。

4. みんなが手をとり維持管理

空き家がちょっといい場所になったら、バスも乗らないのに近所の誰かが来るかもしれない、バス停。そこにコーヒーサーバーを置いて、バスを待つ人とコーヒータイム。家族の話や上司の悪口、孫の自慢話に花が咲く。そんな楽しい地域のスポットだったら、近所のみんなで掃除をしたり、維持費を負担してくれるかもしれない。カフェや雑貨屋が入居したくなるかもね。

5. 新しい風景の創造と発見

バス停が週替わりになると、週によって歩く道が少しだけ変わって、週替わりで少し違った町の風景に出会える。長年、同じ道ばかりを通っていたかと気付かされる。そして、毎週どんどん新しい町の景色に出会うことができて、むずむずと町の散策をしたくなる。ゲームばかりしている弟を引っ張り出して町の散歩に出かけてみる。そんなまちづくりがあってもいいね。